Vol.1

船のお仕事体験談！

練習船のここだけの話

⚓なぜ航海士になったのか、そして船が教えてくれたこと

私は、今年３月に 30 年余りの海上勤務を本校の練習船で終えました。なぜ航海士になったのか、そして船が教えてくれたことついて、これまでの自分自身を振り返りながらお話したいと思います。

高知県の南西にある最後の清流と言われる四万十川が市内を流れる中村、現在の四万十市で生まれました。2 歳のとき父の勤めの関係で兵庫県に移り住み、水産大学校に入学するまでそこで育ちました。幼い頃から、魚やザリガニ、泥鰌などを網で掬ったり釣ったりして遊び、魚類図鑑を見るのも好きで、川や池があると、自然とそこに目がいき、魚を探すような子どもでした。高校を卒業し大学受験に失敗した頃、和歌山県白浜に大型の水族館が出来ました。今では、パンダの飼育で有名になっています。そこの従業員の募集に応募し、大阪駅近くのビルで面接を受けました。担当者から「君はまだ若いから、これから大学に行き卒業し、それから、ここに勤めたかったら来なさい」と言われ、今から思えば体良く断られました。大学には行けず働きもせずという一時期、四万十市の叔父の家で過ごしました。そこでは、農作業を手伝ったり、テナガエビを玉網でとったり、ウナギを釣ったりしていました。

こういう自然豊かな故郷で過ごすのも悪くないかなと思いもしましたが、やはり、どこかで諦めきれず、かと言って社会人にはなりたくないという中途半端で身勝手な考えで過ごしていたように思います。それから、水産大学校に入学した時には、同級生より３年遅れていましたが、海が身近になりました。大学校の前も後ろも海です。3 年生の実習は練習船に乗って東シナ海でのトロールでした。船の回り 360 度全て海という景色のなかで、これまで図鑑でしか見たことがなかった様々な魚が網から出て甲板上でピチピチ跳ねる様子に目を奪われ、船が進む船首では、驚いて海面すれすれを飛ぶトビウオや船と一緒に泳ぐイルカを見て感動しました。もともと魚や泳ぐことが好きでしたが、どんどん海に惹かれて行くようになりました。船で働く乗組員や大きな船を操縦する航海士その制服姿も格好良く見え、また、同じクラブの先輩が船乗りとして大手水産会社に就職されるのを間近で見たことが、航海士という職業を意識した最初だったように記憶しています。

なぜ航海士という職業に就いたのかは、やはり、幼い頃からあった海へのあこがれや魚が好きという気持ちと、この水産大学校で海技士資格を取得し、それを活かして生きていこうという気持ちが芽生えたからだと思います。

海が好きだから水産大学校に入学しましたが、入学してからは毎日ラグビーに明け暮れる学生時代を過ごしました。卒業後、航海士として働き始めましたが、免許は持っていても何も分かりません。今なら、知りたい

ことや分からないことをインターネットで調べると多くの情報を得ることが出来ますが、その当時は上司をみて仕事を覚えました。そんな航海士として働き始めた頃は、船の運航技術を習得し早く一人前になりたい気持ちと狭い船内生活で人間関係を円滑に過ごすにはどうしたらいいかという思いで毎日を過ごしていました。ごく限られた船内で人に揉まれながら、仕事の仕方、生き方や生活態度など、その時々色々なことを見て、感じ、考え、過ごしてきたように思います。しかし、ふと外に目を向けると、そこには海と空があり、季節ごとや朝な夕なに刻々と移り行く自然の表情に癒されていました。

写真1　荒天の船首

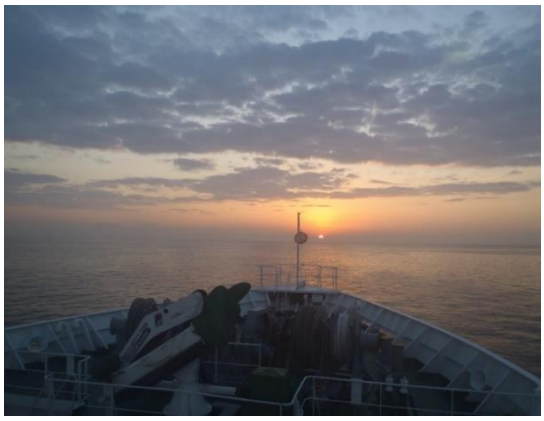

写真2　凪の海に昇る朝日

最後に船が教えてくれたことをお話します。海は凪の日ばかりではなく、時には強い風が吹き、嵐のように荒れ狂う時化もあります。洋上での船は、風や波の影響を受け船首を左右に振り（ヨーイング）ながら、または上下に（ピッチング）、あるいは左右に傾き（ローリング）ながら進んでいます。船は目的地にまっすぐ向かっているようでも、あっちを向いたり、こっちを向いたりしながら進んでいます。強い風が吹き、大きな波やうねりが押し寄せるような場合（写真1）は、船は安全なところまで避難するか、その場で待てるなら、無理をせず待ちます。「待てば海路の日和あり」ということわざがあります。荒れ狂う嵐も必ず止み晴れ間がやって来る（写真2）ことから、今は、思うようにいかなくても、じっと待っていれば、その内にチャンスがやってくる。だから辛抱強く待てというような意味ですが、なかなか待てないものです。じっと待つことが最良だったのではと、後になって反省することがこれまで幾度もありました。しかし、待つことは、何かをしようと動くことより、更に強い意志（信念）がいるように思います。それから、船の速さについてですが、新幹線や飛行機のように速くなく、自転車程度のスピードで世界一周をしたり南極まで行って来たり、本当に凄いと思います。自分が真っ直ぐ進もうと思っても、自分がこうしたいと思っても、色々な障害や問題が出てきたりして、なかなか思うように行かず、切羽詰まったとき、そんな時は歩みを緩めて、いつか必ず良くなる日が来ることを信じて待てばいい。自分のやりたいことが出来なくても、夢から遠ざかってしまったように感じても、しっかりその夢を持ち続け、それに向かってコツコツと努力していたら、必ず、チャンスは訪れ目標や夢は叶うと船は教えてくれています。

　これから、みなさんを色々な海が待ち受けているでしょうが、困難にぶち当たったとき、様々な解決方法があると思います。考えても、考えても分からなかったら、休めば良いと思います。「待てば海路の日和あり」という言葉を心のどこかで覚えておいて下さい。きっと、役に立つ日があるかも知れません。

（海洋生産管理学科　鎌野　忠：元船長）